

6 多摩川及び鶴見川水系における魚類分布の調査研究 (第3報)

Study on the Distribution of Fishes of the Tama River and the Tsurumi River (III)

平 山 南見子	Namiko	HIRAYAMA
古 塩 英 世	Hideyo	KOSHIO
大 嶋 道 孝	Michitaka	OSHIMA
山 田 茂	Shigeru	YAMADA

1 はじめに

水生生物による水質調査として、昭和52年から付着藻類、底生動物及び魚類の分布調査を多摩川及び鶴見川水系について行っており、これらの調査に関してはすでに報告している。¹⁾

本年度は昭和55年、56年度と同様に多摩川及び鶴見川水系について魚類分布調査を行った。これまでの調査では採取場所をなるべく均一化するためにできるかぎり瀬の部分で魚類採取を行ってきた。今回は比較のため、瀬と淵のように河川形状の違うところでの採取も試みた。

以下これらの結果及びこれまでの調査結果との比較について報告する。

2 調査期日及び調査地点

調査は昭和59年6月下旬より8月下旬まで行った。調査地点は図1に示すように多摩川水系18地点、鶴見川水系9地点の計27地点である。河川名と調査地点は表1に示した。調査地点1~11は多摩川本川、調査地点12~18は多摩川水系の支川、調査地点19~27が鶴見川上流及び支川である。

3 調査方法

魚類の採取は多摩川、鶴見川本川では主に投網(11.5×11.5mm目)によって行った。また支川においては、本川と同様、主として投網を使用した。たも網(0.49×0.49mm目)を併用した地点も多い。投網は1地点で10回程度、たも網は10m程度の流程において行うことを目安とした。

魚類の分類についてはこれまでと同様に行った。ただしフナについては前回キンブナ、ギンブナ、ゲンゴロウブナなど種の分類を試みたが、今回は行わなかった。

4 調査結果及び考察

表1に採取当日の環境要因をまとめた。

4.1 出現魚種

今回の調査で淡水魚11種(フナは1種とした)、汽水あるいは海水魚5種、計16種の魚類と

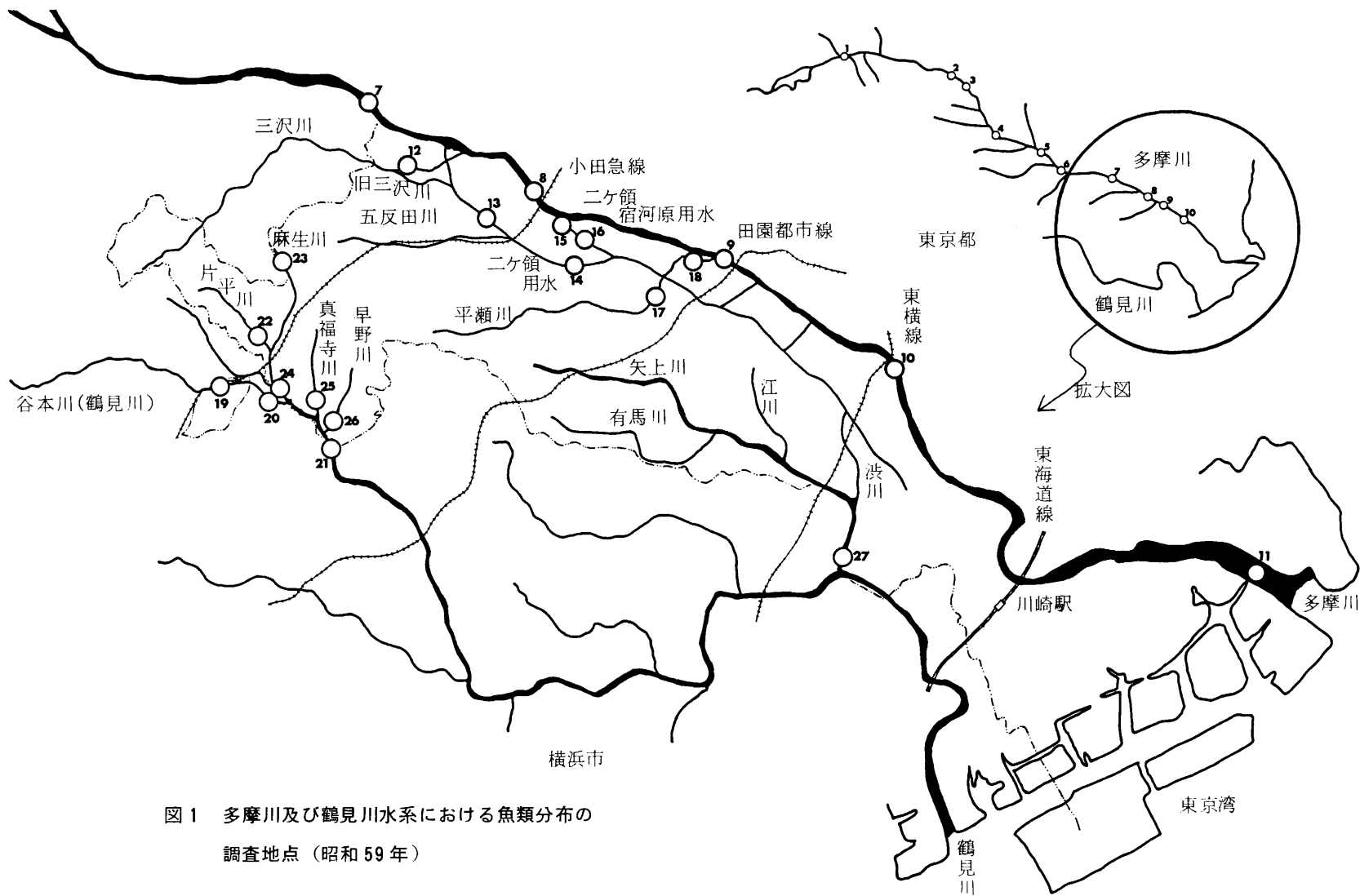


図1 多摩川及び鶴見川水系における魚類分布の調査地点(昭和59年)

表1 魚類分布調査における環境要因

水系	河川名	地点番号	地点名	採取月日 (昭和59年)	水温 (°C)	pH	流速 (cm/sec)	水深 (cm)	透視度 (cm)	河床構造
多摩川本川	多摩川	1	海沢橋	8/27	11.0	7.5	56	50	50cm以上	岩板・こぶし大の石
		2	羽村堰上	8/27	13.5	7.6	80	50	〃	こぶし大の石
		3	永田橋	8/27	19.5	7.6	51	40	〃	こぶし大の石
		4	拜島橋	7/25	24.5	7.4	平瀬 61 よどみ 10	40 150	〃	砂利
		5	日野橋	7/25	24.0	7.3	58	60	〃	砂利
		6	関戸橋	7/25	25.5	7.2	平瀬 50 淵 19	60 100	〃	砂利 石・砂
		7	多摩川原橋	7/26	25.0	7.3	平瀬 36 淵 16	50 100	〃	砂利・土
		8	多摩水道橋	7/26	25.0	7.2	61	100	〃	砂利
		9	二子橋	7/26	27.0	7.3	76	50	〃	砂利
		10	丸子橋堰下	7/26	26.5	7.2	堰下 33 淵 一	110	〃	砂
		11	多摩川河口	7/11	24.0	7.4	—	50	18cm	砂・ヘドロ
多摩川系支川	三沢川	12	新指月橋	7/10	24.0	7.3	76	15	50cm以上	コンクリート
	二ヶ領本川	13	徒橋	7/10	24.0	7.2	34	80	〃	ヘドロ
		14	豊年橋	7/10	22.5	7.2	51	50	〃	コンクリート・ヘドロ
	二ヶ領宿河原用水	15	新船島橋	7/9	21.5	7.1	55	40	〃	コンクリート・ヘドロ
		16	宿河原橋	7/9	21.0	7.0	65	40	〃	ヘドロ
	平瀬川	17	中之橋	7/9	23.0	7.2	54	10	46	砂利
18		平瀬橋	7/9	22.0	7.3	59	50	50cm以上	砂利	
鶴見川及び支川	谷本川 (鶴見川)	19	岡上	6/25	20.0	7.2	48	60	35	砂
		20	慰廻橋	6/25	21.5	7.3	71	50	48	岩板・砂利
		21	寺家橋	6/25	21.0	7.3	48	60	45	岩板
	片平川	22	仲町橋	6/26	19.0	7.2	56	7	50	コンクリート
	麻生川	23	金耕橋	6/26	18.0	7.2	56	4	44	コンクリート
		24	中野橋	6/25	21.0	7.3	52	20	44	岩板
	真福寺川	25	末端	6/26	20.0	7.1	9	40	24	砂利・ヘドロ
早野川	26	末端	6/26	20.0	7.3	36	8	50cm以上	コンクリート	
矢上川	27	矢上川橋	7/11	26.0	7.2	14	100	20	ヘドロ	

その他に甲殻類（アメリカザリガニ及びエビ類）を採取したが、特に目新しい魚類は捕獲できなかった。

表2に各地点ごとに出現した魚を示した。なお多摩川では魚の放流（主に稚魚）が毎年かなり行われているので表3に昭和59年度の放流状況例を挙げた。

4.1.1 多摩川本川上流域

st. 1（海沢橋）56年度調査（以下前回とする）ではウグイ、ヤマメ、アユが捕獲されたが、今回は何も捕獲できなかった。これは上流にあるダムからの放流がダム下層部から行われるため、河川の水温が著しく低下し（59年8月27日海沢橋では11℃であった。）、河床の石などにアユの好む付着藻類が生育せず、また魚の生息にも水温が低すぎて不適当な環境になったためと思われる。

st. 2（羽村堰上）この地点は今回新たに調査を行った地点である。この地点は通常魚種、魚数とも豊富であるといわれているところである（漁業協同組合の話）が、今回はウグイが捕獲されたのみであった。これもダム下部からの放流水の影響があらわれているためと考えられる。またこの年の羽村堰より上流域の魚類は全般に成長が悪く、つりなどでも成果はよくない傾向がみられるとの話であった。

4.1.2 多摩川本川中流域

数地点で瀬と淵の両方での採取を試みた。瀬の部分ではウグイあるいはオイカワが多く、淵の部分ではフナ、コイが多い傾向がみられた。

st. 3（永田橋）前はかなりの数のウグイの他、アユ、アブラハヤ、ギンブナなどがみられた。今回はウグイがかなり多く捕獲されたが、他の魚種は捕獲されなかった。この地点の付近では本調査の約10日前に都市下水路から汚濁排水が流入したことにより、アユ3,000尾、その他の魚類10,000尾（推定）が浮上したことである。

st. 4（拜島橋）平瀬ではウグイが最も多く、その外にモツゴ、オイカワ、ニゴイが捕獲されたが、よどみにおいてはフナが多く捕獲された。前回のこの地点での調査結果ではオイカワが多く、その外にいろいろな種類の魚種がみられており、魚類の分布状況が変化したように思われる。

st. 5（日野橋）これまでと同様、平瀬における調査ではオイカワが最も多く、その他にアユ、タモロコなど8種の魚がみられた。

st. 6（関戸橋）今回新たに調査を行った地点で平瀬ではオイカワ、フナとコイが共に多くみられ、ついでウグイ、アユ、タモロコがみられた。よどみの部分ではフナが多く、タモロコ、モツゴもみられた。

st. 7（多摩川原橋）この地点も新たに調査を行ったところで、ゆるい流れの部分ではオイカワが最も多く、よどみのところではコイが捕獲された。

st. 8（多摩水道橋）ここも新しい調査地点で、ゆるい流れの所での調査ではオイカワが最も多く、ついでウグイがみられ、その他、アユがみられた。

st. 9（二子橋）前回の調査と同様、平瀬における調査では、オイカワが最も多く、その外アユ、ウグイ、コイがみられた。

st. 10（丸子橋堰下）感潮域であるが前回多かったボラ等、汽水、海水魚は捕獲されず、

フナが多くみられた。その外にアユ、ウグイ、コイがみられた。

st. 11 (多摩川河口) 前回同様マハゼが多かった。ついでマコガレイ、ボラが多く、スズキ、シマハゼもみられた。またエビ類も多かった。

4.1.4 多摩川水系支川

st. 12 (三沢川, 新指月橋) 前回の調査時にはフナのみが捕獲されたが、今回は河川改修が行われ、新たにできた堰の下流で採取したためか数種類の魚がみられた。投網ではフナが最も多く、ついでオイカワが多くとれた。たも網ではモツゴが多くとれた。またアユが3尾採取できたが、摂食物を調べたところ赤色ユスリカが多かった。通常この時期のアユは石礫などに付着している藻類を常食とするが、藻類が少ない場合には水生昆虫をも餌とするといわれている。²⁾ 従ってこの地点付近は水質汚濁がすすんでおりアユが息息するには付着藻類が少なすぎる河川状況であると考えられる。その外みられた魚種はタモロコであった。

st. 13 (二ヶ領本川, 徒橋) これまでとはほぼ同様、フナが多かった。

st. 14 (二ヶ領本川, 豊年橋) 55年度調査(以下前々回とする)時にはアメリカザリガニがみられたが、その後の河川改修により岸辺の土などがなくなったためか、前回及び今回の調査では何も捕獲できなかった。

st. 15 (二ヶ領宿河原用水, 新船島橋) これまでの調査とはほぼ同様、フナが多く、コイ、ウグイがみられた。

st. 16 (二ヶ領宿河原用水, 宿河原橋) ここはst. 15の新船島橋から約600m下流で前川堀流入後の地点である。前々回にはフナ、キンギョがみられたが、前回及び今回は何も捕獲できなかった。

st. 17 (平瀬川, 中之橋) これまでとはほぼ同様、魚種としてはフナがみられたが、河川改修により堰がなくなったためか、捕獲数が減少した。

st. 18 (平瀬川, 平瀬橋) これまでと同様にオイカワが多いという結果が得られた。

4.1.5 鶴見川上流域(谷本川)

3地点について調査を行った。上流から2地点ではオイカワが多く、最も下流の地点ではフナが多かった。

st. 19 (谷本川, 岡上) 前回同様オイカワが多く、今回の調査地点の中で投網1回あたりのオイカワの捕獲数が最高で50匹程度と最も多かった。

st. 20 (谷本川, 恩廻橋) これまでの調査同様、最も多かったのはオイカワである。

st. 21 (谷本川, 寺家橋) 本地点はこれまでの調査ではオイカワ、モツゴ、フナが捕獲された。今回はフナが最も多く、ついでオイカワ、コイが多く、ナマズも捕獲された。

4.1.6 鶴見川上流域支川

近年開発がすすめられている地域を流れている川が多く、以前の調査で捕獲された魚種がみられなくなっている地点が多かった。

st. 22 (片平川, 仲町橋) 前々回はアメリカザリガニとカダヤシがいたが、前回および今

回とも魚類はみられなかった。この河川は改修がすすみ、源流部分を除いては全て三面張りといわれるコンクリートで囲まれた構造になってしまい、河床に石礫もなくまた水中植物もないため、魚類の生息は難しいと思われる。

st. 23 (麻生川, 金耕橋) この地点は前々回の調査ではドジョウ科の中では比較的きれいな水域に生息するホトケドジョウが多く、その外にドジョウ, アメリカザリガニがみられた。しかし近辺の開発がすすみ、前回はホトケドジョウはみられなくなった。現在この地点では河川の大改修が行なわれて、河川の側面および河床はコンクリート三面張りとなっており、今回の調査では魚類は何も捕獲できなかった。

st. 24 (麻生川, 中野橋) 前々回及び前回の調査ではオイカワ, フナ, モツゴ, ドジョウ, アメリカザリガニ等, 数種類の魚類がみられたが, 今回はフナのみしか捕獲できなかった。

st. 25 (真福寺川末端) 従来, この河川の調査は行なっていなかったが, 魚類の生息の有無を確認するために, 今回始めて調査を行った。しかしながら投網, たも網のどちらの方法でも魚類は捕獲できなかった。

st. 26 (早野川末端) この河川もこれまで調査を行っていない。今回は川中が狭いために投網による調査はできなかったが, たも網では川の岸辺の水中植物のはえている付近でドジョウの幼魚を捕獲した。

4.1.7 鶴見川下流域支川

鶴見川下流域に流入する川崎市内河川としては矢上川がある。その矢上川に合流する小河川はいずれも水質汚濁が著しく, また河川構造もコンクリート三面張りが多いためか, ほとんど魚影がみられない。

st. 27 (矢上川, 矢上川橋) 水質汚濁の著しい地点であるが今回の調査も含めて3回の調査でいずれもフナがわずかではあるが捕獲されている。

4.2 魚種組成と水質汚濁度

今回もこれまでの調査と同様に, 水質汚濁度との関連をみるために, 魚類分布調査結果から魚種組成図を作成し, 以下に示す方法を用いて分布タイプ別に分類を試みた。なおこれまでの結果と比較するため主に平瀬の投網による採取結果について検討した。

魚種組成と水質汚濁度

- | |
|--|
| <p>A : ウグイが優占種または優位種となっている区域, ヤマメ, カジカが少しこれに加わる。貧汚濁性に対応する。</p> <p>B₁ : オイカワが優占種または優位種となっている区域, モツゴ, タモロコ, フナ類がこれに少し加わる。弱・中汚濁性に対応する。</p> <p>B₂ : オイカワ, モツゴ, タモロコ, フナ類が混在して優位種となっている区域, 単独種の優占性は認められない。強・中汚濁性に対応する。</p> <p>C : フナ類が優占種または優位種となっている区域, コイ, モツゴ, タモロコがフナ類に次いで多い。強汚濁性に対応する。</p> |
|--|

図2からわかるように多摩川では上流域の st. 2 羽村堰上, 中流域の st. 3 永田橋, および st. 4 拝島橋 (前回タイプ区分 B₁) が A (貧汚濁域) に相当していた。st. 5 日野橋から st. 9 二子橋までの中流域のほとんどの地点では B₁ (弱・中汚濁域) であったが, st. 6 関戸橋は B₂ (強・中汚濁域) であった。下流域の st. 10 丸子橋堰下は C (強汚濁域) であった。多摩川水系の支川では st. 12 三沢川の新指月橋が前回は C (強汚濁域) であったのに河川改修により堰ができたためか, B₂ (強・中汚濁域) となった。また st. 17 平瀬川の平瀬橋はこれまでと同様, B₁ (弱・中汚濁域) であった。多摩川支川のその他の地点は C (強・汚濁域) であった。鶴見川では上流 (谷本川) の 2 地点 (st. 19 岡上, st. 20 恩廻橋) で B₁ (弱・中汚濁域) であった。st. 21 寺家橋は前回は B₁ (弱・中汚濁域) であったのに今回は C (強汚濁域) であった。鶴見川水系の支川は C (強汚濁域) であった。

5 総括

- (1) 昭和55年度, 56年度と同様の魚類分布調査を昭和59年6月～8月に多摩川水系18地点, 鶴見川水系9地点の計27地点について行った。
- (2) 淡水魚11種 (フナは1種とした。) 汽水あるいは海水魚5種, 計16種の魚類とその外に甲殻類を捕獲した。出現魚種はこれまでの調査とはほぼ同様であったが, 水質, 河川構造等の状況の変化により異なった結果が得られた地点もあった。多摩川本川の上流ではウグイが, 多摩川本川中流域及び鶴見川上流域 (谷本川) のほとんどの地点でオイカワが, 多摩川下流域及び多摩川, 鶴見川両河川の支川ではフナが多かった。また瀬と淵のように河川形状の違うところでの採取をいくつかの地点でこころみたところ, 瀬の部分ではウグイあるいはオイカワが多く, 淵の部分ではフナ, コイが多いという傾向がみられた。
- (3) 魚種組成から分布タイプの区分を行い, 水質汚濁度を推察した。それによると多摩川本川上流域から拝島橋までの中流域は A (貧汚濁域), 多摩川中流域の大部分の地点は B₁ (弱・中汚濁域), 多摩川下流域は C (強汚濁域) であった。多摩川水系の支川は C (強汚濁域) を示した地点が多かった。鶴見川水系では上流では B₁ (弱・中汚濁域) であったが, 支川は C (強汚濁域) であった。

今回の魚類調査における魚の採取に際し, 便宜をはかって下さった川崎河川漁業協同組合, 多摩川漁業協同組合, 秋川漁業協同組合及び奥多摩漁業協同組合の方々に感謝致します。

文 献

- 1) 平山南見子, 松尾清孝, 山田茂他: 川崎市公害研究所年報, 5～10, (1977～1984)
- 2) 宮地傳三郎他: 原色日本淡水魚類図鑑, 全改訂新版, p.112, 保育社, 大阪, (1980)
- 3) 東京都水産試験場: 多摩川の魚類生態調査-I, p.6, 建設省京浜工事事務所, (1974)
- 4) 東京都水産試験場: 多摩川の魚類生態調査-II, pp. 87～91, p.116, 建設省京浜工事事務所, (1975)
- 5) 河川環境研究会: 解説 河川環境, 第3版, pp. 121～127, 山海堂, 東京, (1985)

表2 多摩川および鶴見川水系における出現魚種 (昭和59年)

水系 河川名	多摩川本川											多摩川水系支川								鶴見川および支川									
	多摩川											三沢川		二ヶ領用水		二ヶ領宿河原用水		平瀬川		谷本川(鶴見川)		片平川		麻生川		真福寺川		早野川	
地点番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27		
調査地点	海沢橋	羽村堰上	永田橋	拝島橋	日野橋	関戸橋	多摩川原橋	多摩水道橋	二子橋	丸子橋下	多摩河口	新指月橋	徒橋	豊年橋	新船島橋	宿河原橋	中之橋	平瀬橋	岡上	恩廻橋	寺家橋	仲町橋	金耕橋	中野橋	末端	末端	矢上川橋		
漁法	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網	投網		
河川の形状 魚種名	平瀬	平瀬	平瀬	平瀬 よどみ	流ゆる 平瀬 れい	平瀬 よどみ	流ゆる れい	よどみ	流ゆる れい	平瀬	堰直下	流ゆる れい	流ゆる れい	流ゆる れい	流ゆる れい	流ゆる れい	平瀬	流ゆる れい	流ゆる れい	流ゆる れい	流ゆる れい	流ゆる れい	平瀬	平瀬	平瀬	よどみ	平瀬	流ゆる れい	
アユ					○	○			○	○	◎																		
タモロコ					○	○	○														○								
モツゴ				○	○	○																							
ウグイ	◎	◎	◎		○	○			◎	○	◎	○			○						○								
アブラハヤ					○																								
オイカワ			○		◎	◎		◎		◎										◎	◎	◎	○						
フナ				◎	○	◎					◎		◎	○	◎	◎			◎		○	◎		◎			◎		
コイ				○	○	○		◎		○	◎				○													○	
ニゴイ			○																										
ドジョウ																												◎	
ナマズ																													
ボラ												○																	
スズキ												○																	
マハゼ												○																	
シマハゼ												○																	
マコガレイ												○																	
エビ類												◎																	
アメリカザリガニ																					○								
幼魚(不明)														◎															

◎ 捕獲数の30%以上を占めた魚
○ 捕獲数が30%以下だった魚

表3 多摩川及び鶴見川水系における魚の放流，増殖状況例（昭和59年度）

事業者	魚の種類 (主に稚魚)	放流数もしくは 重量	増殖所もしくは 造成産卵所数	地点
奥多摩漁業 協同組合	ヤマメ ヤマメ(成魚) マス アユ アユ(成魚) コイ イロゴイ フナ ウグイ	120,000尾 3,000 12,160 2,900kg 45,000 67,000 10,000 10,000 —	造成産卵所11ヶ所	多摩川 小河内ダム下流 500m ～羽村堰
秋川漁業 協同組合	ヤマメ ヤマメ(成魚) ヤマメ(発眼粒) イワナ マス(成魚) アユ アユ(成魚) コイ イロゴイ フナ ウナギ ウグイ	150,000尾 2,000 40,000(粒) 1,000 100,150 845,000(3,380kg) 27,500(1,000kg) 60,000 10,000 30,000 3,000(150kg) —	造成産卵所66ヶ所	秋川および 多摩川羽村堰下 ～拝島橋
多摩川漁業 協同組合	ヤマメ ニジマス アユ コイ フナ ハヤ ウナギ ウグイ	30,000尾 20,000 260,000 540,000 405,000 2,500 1,000 —	造成産卵所14ヶ所	多摩川 拝島橋下流 ～ガス橋 (ヤマメおよびニジ マスは支川の浅川)
川崎河川漁業 協同組合	アユ コイ フナ ウグイ ウナギ オイカワ コイ フナ	50,000尾 300,000(3,000kg) 200,000(2,000kg) 20,000(300kg) 20,000(40kg) — — —	増殖所 6ヶ所 産卵増殖所12ヶ所 産卵増殖所 6ヶ所	多摩川 稲田堤 ～丸子橋
ふるさと 多摩の会	コイ	100,000尾		三沢川,二ヶ領用水, 五反田川,平瀬川,麻 生川,鶴見川16地点
川崎市経済局 農政課	コイ ヘラブナ(ゲンゴ ロウブナ)	50kg 330kg		多摩川川崎市内流域
有馬,野川 子供文化セン ター	サケ	—		多摩川

水系	河川名	地点番号	地点名	魚種組成	タイプ区分
多摩川本川	多摩川	2	羽村堰上	ウグイ	A } 貧汚濁域 A } A } B ₁ } 弱・中汚濁域 B ₂ } 強・中汚濁域 B ₁ } B ₁ } 弱・中汚濁域 B ₁ } C } 強汚濁域 ※
		3	永田橋	ウグイ	
		4	拝島橋	ウグイ、オイカワ、モツゴ、コイ	
		5	日野橋	ウグイ、オイカワ、モツゴ、タモロコ、フナ、コイ、他	
		6	関戸橋	ウグイ、オイカワ、フナ、コイ、他	
		7	多摩川原橋	オイカワ、タモロコ	
		8	多摩水道橋	ウグイ、オイカワ、他	
		9	二子橋	ウグイ、オイカワ、コイ、他	
		10	丸子橋堰下	ウグイ、フナ	
		11	多摩川河口	他	
		多摩川支川	三沢川 二ヶ領本川 二ヶ領 宿河原水 平瀬川	12	
13	徒橋			フナ	
15	新船島橋			ウグイ、フナ、コイ	
17	中之橋			フナ	
18	平瀬橋			ウグイ、オイカワ	
鶴見川及び支川	谷本川(鶴見川) " " 麻生川 矢上川	19	岡上	オイカワ、フナ、他	B ₁ } 弱・中汚濁域 B ₁ } C } C } 強汚濁域 C }
		20	恩廻橋	オイカワ、フナ、他	
		21	寺家橋	オイカワ、フナ、コイ、他	
		24	中野橋	フナ	
		27	矢上川橋	フナ	

※-タイプ区分できなかったもの

図2 地点別の魚種組成(昭和59年)

附表 魚数採取結果 (昭和 59 年)

水系	多摩川本川														多摩川支川																																			
	多摩川														三沢川				二ヶ領本川																															
河川名	多摩川														三沢川				二ヶ領本川																															
地点番号	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		13		14																							
調査地点	海沢橋		羽村堰上		永田橋		拜島橋		日野橋		関戸橋		多摩川原橋		多摩水道橋		二子橋		丸子橋堰下		多摩川河口		新指月橋		徒橋		豊年橋																							
漁法	投網		投網		投網		投網		投網		投網		投網		投網		投網		投網		投網		たも網		投網		たも網																							
河川の形状	平瀬		平瀬		平瀬		平瀬		よどみ		平瀬・ゆるい流れ		平瀬		よどみ		ゆるい流れ		平瀬		堰直下		ゆるい流れ		ゆるい流れ		堰下流		平瀬		ゆるい流れ		ゆるい流れ																	
魚種名	尾	平均体長 cm	平均体重 g	尾	平均体長 cm	平均体重 g	尾	平均体長 cm	平均体重 g	尾	平均体長 cm	平均体重 g	尾	平均体長 cm	平均体重 g	尾	平均体長 cm	平均体重 g	尾	平均体長 cm	平均体重 g	尾	平均体長 cm	平均体重 g	尾	平均体長 cm	平均体重 g	尾	平均体長 cm	平均体重 g	尾	平均体長 cm	平均体重 g	尾	平均体長 cm	平均体重 g														
	アユ										2	14.2	42.7	1	13.5	65.6																																		
タモロコ										2	8.5	12.0	1	7.7	9.2	2	7.7	9.3	3	7.6	9.3																													
モツゴ							1	7.0	6.7	2	7.6	9.6		2	7.0	8.8																																		
ウグイ				12	10.1	20.5	30	9.0	13.4	5	9.5	13.2		3	9.2	15.1	3	8.4	10.7																															
アブラハヤ										1	9.6	13.3																																						
オイカワ							1	9.1	11.8																																									
フナ										148	6.0	5.7	2	11.3	45.9	2	6.3	8.3	6	11.0	48.4																													
コイ										15	8.0	13.3	2	13.1	73.2	4	7.7	14.3																																
ニゴイ							1	9.5	12.3				2	13.4	36.8																																			
ドジョウ																																																		
ナマズ																																																		
ボラ																																																		
スズキ																																																		
マハゼ																																																		
シマハゼ																																																		
マコガレイ																																																		
エビ類																																																		
アメリカザリガニ																																																		
幼魚																																																		
合計	0			12			30			8			163			27			16		10				14		2		23		20		3		10		95		24		43		8		6		0		0	
投網回数(有効数)	10(0)		10(0)		3(3)		4(3)		1(1)		8(8)		4(4)		2(2)		5(4)		5(1)		5(5)		5(5)		2(2)		3(3)		4(4)		5(4)				5(4)				7(0)											
たも網実施距離×回数																																																		
備考	ダム下部からの放流水のため水温が低い。		8月16~17日(約10日前)汚濁都市下水路によりアユ 3,000尾 其他の魚 10,000尾 (推定)が浮上																																															

附表 つつき

水系 河川名	多摩川支川										鶴見川および支川																				
	二ヶ領宿河原用水					平瀬川					谷本川(鶴見川)				片平川		麻生川		真福寺川		早野川		矢上川								
地点番号	15		16			17		18			19		20		21		22		23		24		25		26		27				
調査地点	新船島橋		宿河原橋			中之橋		平瀬橋			岡上		恩廻橋		寺家橋		仲町橋		金耕橋		中野橋		末端		末端		矢上川橋				
漁法	投網	たも網	投網	たも網	投網	たも網	投網	たも網	投網	たも網	投網	たも網	投網	たも網	投網	たも網	投網	たも網	投網	たも網	投網	たも網	投網	たも網	投網	たも網	投網	たも網			
河川の形状	ゆるい流れ		ゆるい流れ			平瀬					ゆるい流れ		ゆるい流れ		ゆるい流れ		平瀬		平瀬		平瀬		よどみ		平瀬		ゆるい流れ				
	尾数	平均体長cm	平均体重g	尾数	平均体長cm	平均体重g	尾数	平均体長cm	平均体重g	尾数	平均体長cm	平均体重g	尾数	平均体長cm	平均体重g	尾数	平均体長cm	平均体重g	尾数	平均体長cm	平均体重g	尾数	平均体長cm	平均体重g	尾数	平均体長cm	平均体重g	尾数	平均体長cm	平均体重g	
アユ																													13.1	102	
タモロコ															1	7.5	98														
モツゴ																															
ウグイ	2	12.8	38.9										1	9.0	14.2																
アブラハヤ																															
オイカワ													15	11.6	21.7	137	8.5	12.7													
フナ	13	11.0	66.5	1	2.9	0.9				2	12.4	58.5				2	10.5	44.6	2	9.4	32.2							6	12.8	125	
コイ	2	13.5	95.4																												
ニゴイ																															
ドジョウ																												1	2.8	0.3	
ナマズ																															
ボラ																															
スズキ																															
マハゼ																															
シマハゼ																															
マコガレイ																															
エビ類																															
アメリカザリガニ																															
幼魚																															
合計	17			1		0	0	2		0		16		139		3		20		16		0	0	0	0	6	0	0	1	8	
投網回数(有効数)	5(3)		3(0)			5(1)					10(4)				5(5)				5(5)		1(0)		2(0)		7(3)		2(0)		3(2)		
たも網実施距離×回数			2m×5			1m×3					1m×3								1m×5				1m×10		1m×5		1m×3		1m×5		
備考	河川改修が行われ宅地造成中であつた。																														